



次は寝そべってやってみようかー。草スキーを楽しんだ



プレーパーク常連の西原慎さん(上)と木登りにも挑戦した



さあ、何からやってみようかな。想像もかきたてられた

### 「きょうのテーマ」 「プレーパーク」 どんなところ？

公園や学校で遊ぶのとはかなり違う。「あれは危ないからダメ」「これをしてはいけない」といった制約をできるだけ少なくして「自分の責任で自由に遊ぶ」のが、プレーパークのモットーだ。時には危険も伴う遊びに挑戦したり、冒険したり。そんな体験を通して子どもたちに「自由」と「責任」について感じ、生きる力を育んでもらう遊び場で、全国に広がっている。大型連休前に、こども記者5人は福岡県宗像市にある「子どもプレーパーク」で遊び、考えてみた。

## 遊ぶを通して生きる力育む

プレーパークとは土、木、水、火、廃材などを使って子どもたちが自由に遊べる場所であり、考え方のひとつという。「子どもプレーパーク」は宗像市の公民施設、メイトム宗像の隣接地で週に2日ほど開かれる。参加費は無料で「けがと弁当は自分持ち！」が合言葉。おもしろそうだった。  
主催団体「子ども支援ネットワーク With Wind」の代表、藤原浩美さん(65)の説明では「子どもを見守るプレーパークがいて、子どもたちが自分の責任で自由に遊べる環境があれば、庭でも身近な場所でもプレーパークになる」。子どもプレーパークは宗像市と協力しあって開催。参加者も

### 合言葉は「けがと弁当は自分持ち」 大人は子どもの挑戦見守る

増えているそうだが、芝生があるだけの広場だと想像していたが、手作りの木製ブランコや木登りできる木、ハンモックがある。草スキーもできる。夏には斜面がウオーターズライダーになる。スコップやひも、粘着テープなどの道具をそろえた倉庫もあり、穴掘りやいろいろな工作を楽しめそうだった。小学生の西原慎さん(11)が、こども記者を迎えてくれた。「幼稚園に入る前からずっと来ている」と、道具や遊具の使い方を見せてくれ、一緒に遊んだ。急な坂を段ボールに乗ってすべり下りる草スキーは、乗る人数が増えるとスピードが上がってスリル満点だ。ロープのブランコは引く張る人が多いほど遠くまでとべる。でもその分、気をつけないと危ない。たき火をしているところに行くとき煙が目にしみたけれど、みそ汁を味わえた。  
藤原さんは着ているTシャツの英文を指さした。「心が折れるより骨が折れるほうがましって書いてあるよ」。イギリスのプレーパークに書いてあった言葉とのこと。プレーパークでは子どもがけがをしそうな時大人は見守るだけ。自分の限界を知り、危険を察知する力を、遊びを通して育む場だと教えてくれた。  
「痛みや悲しみも、自分の未来のためだから」と藤原さん。老木



お玉に砂糖とほんの少しの水で、あめができるんだ！

**取材メモから**

**福岡市 飯倉小6年 岩永 優香記者**  
「自由だけ自分が責任を取る」というのは矛盾しているように感じたが「悲しみも痛みもけがも自分の未来のためだから止めない」という言葉に納得した。みんなもプレーパークに行ってみませんか。

**福岡県福津市 福岡南小6年 寺林 結菜記者**  
プレーパークと公園のちがいは、プレーパークは子どもがやりたいことをやらせる自由な場で、公園は場所のことだ。遊びに来ていた子たちとたくさん遊んで「本当に自由なんだな」と思った。

**福岡市 原北小5年 福沢 夏穂記者**  
けがしても自分の責任なのは、その子にとって生きる糧になると信じ、それを奪わないようにするためにそうだった。「心が折れるより骨が折れるほうがまし」という言葉も、その通りだなと思った。

**福岡県大野城市 大野南小6年 淵上 綾那記者**  
近くに川があって、森があって木があって、とても「自然」を感じられて気持ちよかった。大人になつたら、子どもと一緒に来て、自分の子どもにもきょう感じたいことを知ってほしい。

**福岡県柳川市 やまと小5年 前田 洗希記者**  
「きょうかならずへじをつかまえてくる」といって本当につかまえてきた子がいたという話を聞いて、すごいと思った。プレーパークで過ごした一日は疲れたけれど、今までの取材で一番楽しかった。

この紙面の記事は、こども記者が取材して書いた記事をもとに、こどもタイムズ編集部がまとめています。